

CUTTING SHEET.

使用上のご注意



正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず「使用上のご注意」をよくお読みください。

⚠ 被着体・素材選定時の注意点

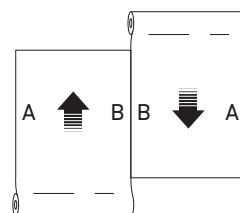
- 施工の際は、被着面が平滑で十分な接着力が、得られることをご確認の上、作業を進めてください。
- 一部のプラスチック樹脂板（ポリカーボネート・FRP・ウレタン等）は、貼り付け後、気泡が生じる場合があります。
- フッ素樹脂・ポリエチレン・ポリプロピレン等のプラスチック樹脂は、十分な粘着力が得られない場合があります。
- 金属板に貼付し、直射日光があたる屋外で使用了した場合、粘着剤の劣化が生じます。このようなご使用は避けください。
- 熱や湿度がこもりやすい環境でのご使用は避けください。フィルムや粘着剤の劣化が促進され、本来の機能が損なわれます。
- フィルムをはがす際に、ガラスの種類によっては糊が残る場合があります。
- 光を透過させた場合、色の濃淡でムラが目立つ場合がありますので、使用時はご注意ください。
- アルミニウム等、腐食が生じる金属板への貼付はご注意ください。錆の発生で剥れる場合があります。
- 窓ガラスにフィルムを貼ると、ガラスの温度が上昇し熱割れを生じる場合があります。
- セブテットフィルムは製法上フィルム表面に樹脂塊や色抜けが生じる場合があります、ご確認の上ご使用ください。
- セブテットフィルムは製法上場所によって色が異なります。つなぎで使用する際はご注意ください。
- 表面が傷付きやすいため、圧着する時は、こまめにフィルム表面に霧吹き等で中性洗剤入りの水をかけてください。
乾いた状態のままスキージ等で圧着すると、フィルムを破損する場合がありますので、十分にご注意ください。
- フィルムの表裏の色や隠蔽性にご注意ください。両面同色ではない品番があります。
- 屋外可の製品は外貼り可能ですが、実際の耐候性については各製品ページにてご確認ください。
- その他の素材・被着体については、お問い合わせください。

熱割れの生じる条件

- * ガラスの種類 ————— フロート板ガラスは、3～12mm厚より16～19mm厚の方が熱割れしやすい。網入りガラス・線入りガラスは、フロート板ガラスより熱割れしやすい。
 - * 影の形状 ————— ガラス面に部分的に影ができると熱割れしやすい。
 - * 窓ガラスの近くにある反射物 ————— カーテンやブラインド等の使用は、日射をガラス面に反射させたり熱がこもりやすくなり、熱割れの原因になる。
 - * ガラスの大きさ ————— 面積が大きいほど熱割れしやすい。
 - * ガラス施工品質 ————— 熱割れは、ガラスのエッジから始まるので、エッジの仕上げが雑だと熱割れしやすい。
 - * その他の要因 ————— 窓の方位、建築地域、施工の種類（パテやシーリング材の違い）等
- ※ ガラスメーカー3社が採用している熱割れ計算式にて、可能性の有無を検討することができます。当計算は、指定された条件に基づくもので、保証値ではありません。参考資料としてご利用ください。
- ※ ガラスの熱割れに関しては、フィルム以外の影響もあり、当社では保証致しかねます。

⚠ 施工について

- 製品ロットにより、色調や質感が異なる場合があります。隣接して使用する場合は、同一ロットのものをご使用ください。また、同一ロットの場合でも、流れ方向の左右で微妙に色調や質感が違うことがありますのでご注意ください。
- 隣合わせて貼る場合は上下を逆に貼り、流れ方向の左右をあわせて作業を行ってください。（右図参照）
- 貼り付け作業は、5℃～30℃の環境条件下で行ってください。



- ・低温（10℃以下）の場合、ジェットヒーターなどで温めた後、作業を行い、十分圧着してください。
- ・高温（30℃以上）の場合、初期粘着力が増し貼りづらくなるため、涼しい時間帯での作業をお勧めします。
- ・ガラス面等に水貼り施工する場合、中性洗剤を数滴（1Lに対して2～3滴）混ぜてご使用頂くと施工し易くなります。
（酸性・アルカリ性等中性洗剤以外の洗剤は使用しないでください）
- ・施工時の水分がガラス面にわずかに残ることで水泡が生じる場合がありますが、製品の異常ではありません。水分は時間とともに気化し、自然に解消されます。ただし、気温が低い、日陰、湿度が高いなどの環境では、解消までに日数を要することがあります。
- ・セパレーターは、滑りやすいので転倒事故等にはご注意ください。
- ・表面が傷付きやすいため、圧着する時は、こまめにフィルム表面に霧吹き等で中性洗剤入りの水をかけてください。
乾いた状態のままスキージ等で圧着すると、フィルムを破損する場合がありますので、十分にご注意ください。
- ・傷や汚れのあるガラスには、熱割れや機能低下の恐れがあるためフィルムを貼らないでください。
- ・水糊などを使用して施工された壁紙や経師紙などの上にカッティングシートを貼る場合は、必ず水糊が完全に乾いた状態で施工してください。目安としては、水糊による施工後24時間から48時間程度の乾燥時間を確保することをおすすめします。水糊が十分に乾いていない状態でカッティングシートを貼ると、粘着性能が十分に発揮されず、時間の経過とともに被着体が乾燥して収縮し、フィルムが浮いたり剥がれたりする原因となります。施工の際は、事前に乾燥状態をよく確認してください。
- ・システムパネルに施工する際は表面の凹凸や表面処理の状態によってフィルムの浮きや剥がれの原因となります。
- ・湿度がこもりやすい環境でのご使用はお避けください。フィルムや粘着剤の劣化が促進され、通常の機能が損なわれます。

施工後のメンテナンスについて

- ・フィルム施工直後は十分な接着力が得られていないため、手を触れないようにしてください。清掃を行う場合は、フィルム施工後1ヶ月以上の期間を置いてください。
- ・フィルム表面に汚れを付着させたままにすると、フィルムの劣化を促進させる場合があります。使用環境によっては、定期的な清掃を行ってください。
- ・フィルム表面に粘着テープやステッカー等を貼ったり、マジック等で書いたりしないでください。
- ・フィルムは、有機材料でできているため製品に寿命があります。また、過酷な使用環境や、予測しかねる環境変化により、不具合や性能の低下が生じることがあります。ご使用にあたっては、事前にお問い合わせください。

清掃方法

- ・フィルム施工後の養生期間中は、フィルムが乾いておりませんので、手を触れないようにしてください。
 - ・フィルムの性能を維持するためには、定期的な清掃が必要です。
1. 窓ガラス清掃用ワイパーや水を含んだ柔らかい布で軽く水洗いしてください。乾拭きは避けてください。ワイパー本体の金属部分（特にエッジ部分やボルト）がフィルムに接触しないよう注意してください。
 2. フィルム表面に砂ぼこり、金属粉等が付着している場合は、無理にこすると傷がつきます。ワイパーを使用する前に、水や十分に水を含んだ柔らかい布等で洗い流してください。
 3. フィルム面は、必ず一方向に拭くようにしてください。（往復しないでください）
 4. フィルム面に継ぎ目があるときは、継ぎ目に沿って拭いてください。
 5. 汚れがひどい場合は、水に中性洗剤（1～2％）を混ぜて使用してください。アンモニア系、塩素系、有機系洗剤は使用しないでください。

その他

- 高温多湿や直射日光の当たる場所での保管は、お避けください。
- 製品を保管する際には、押し跡がつかないよう、宙吊り若しくは立ててください。
- 人体への貼り付け等、本来の用途以外でのご使用は、お避けください。
- 製品の仕様等は改良のため、予告無く変更する場合があります。
- 正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず「使用上のご注意」をよくお読みください。
- 廃棄上のご注意
 - 1. 焼却する場合大気汚染防止法などに適合した処理方法に従ってください。
 - 2. 埋立てする場合廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って、公認の廃棄物処理業者にて処理してください。